

〔弾丸道路改良〕

久之浜町では五月下旬に既に国道工事に關しては全く地元負擔金二百万圓の通知があつたが、町當局では六號道路の橋梁工事地元負擔金は無いものと信じていた折柄まつたく寢耳で、水との地元負担金をめぐつて今後の成り行きが各方面から注目されている。問題の六號道路の改良は四倉町海氣館前から久之浜町末続部落に至る約四、七キロメートルの工事で去る廿八年から着工、現在久之浜町龍光寺近辺まで完成しているもので、今回の地元負擔金はこの改良工事のうち大久川橋梁（大久橋）工事費二千万圓の一割二百万圓が割當てられたものである。町當局としてはこの道路改良工事は建設省の仕事で當然地元負担金はかゝぬものと思つて來たが、實際は県の工事で工費は國庫五割、縣五割、の負擔により、工事のうち特に橋梁工事に關してだけは地元町村で一割を負擔する事に縣の内規に定められているものである。

現在久之浜町では二百萬圓の地元負担金を巡り不隱な空気が流れているが、町當局としては橋梁工事に地元負担金が要ると知つていれば當然工事に反対した筈で、本年四月から橋梁工事に着手しながら今頃突然通知

十二月定例市会で強引に二五%確保の建議案を可決した磐城市三十年度教育予算は二二日午後一時からの市教育臨時委員会で審議され同委員会に上提される三十

| | |
|-------|------|
| 第一分團長 | 坂本義雄 |
| 第二分團長 | 高木芳郎 |
| 第三分團長 | 鈴木唯男 |
| 第四分團長 | 新妻敬壽 |
| 第五分團長 | 遠藤藤 |

總額一九年度の一倍に

個人攻撃のドロ試合禁止」の動きは次第に活発となり、小名浜社民クラブ、市労協などとされており、この動きは今後の磐城市政界を大きくして最低十名の當確を期すに至る。一方で、磐城市社党同志会準備会などを中心により／＼協議さる左右するものとして各々面の注目を浴びながら着々と候補者の選考が行われようとしている。

同じグループでも與野党でなく社会主義者もしくはこれに同調する革新主義者をもつて階級的な立場から市名、江名四名、泉三名、渡辺一名、鹿島一名、玉川一としている

申合せをしようとする。され

ている

政を批判し、市政に革新思

祝火の見やぐら完成

團長
白坂本克一郎
土妻
西山清志
唐生

第一分團長 坂本義雄
第二分團長 高木芳郎
三分團長 鈴木唯園
第四分團長 新妻敬壽

富岡土木監督所
久之浜出張所

佐藤鐵工所

町長 新妻久五郎
助役 遠藤登三郎
收入役

議長大須賀熊吉
副議長高木好之
議員妻木豊吉
議員妻木勝藏
議員妻木瀬戸一郎

富北
鄉岡藤三部
新猪狩
妻茂弘一
芳右郎
雄郎門

憂慮される與野党の激化

革新系は十名當確で統一對策

| | | | |
|--------|------------|--------|--------|
| 助役 | 遠藤 | 新妻久 | 五郎 |
| 收入役 | 新妻啓三郎 | 久之浜町議會 | 副議長 |
| | ○遠坂吉高鈴瀬戸一郎 | 議長 | 大須賀熊吉 |
| | ○遠坂吉高鈴瀬戸一郎 | 副議長 | 高木好之助 |
| 四條芳雄 | 新佐木妻豊吉 | 議員 | 新佐木妻豊吉 |
| 新妻茂右王郎 | 新木妻長之助 | 議員 | 新木妻長之助 |
| 猪狩一郎 | 北岡藤三郎 | 議員 | 北岡藤三郎 |
| 富岡一郎 | 新木妻長之助 | 議員 | 新木妻長之助 |
| 妻妻 | 新木妻長之助 | 議員 | 新木妻長之助 |
| 四條芳雄 | 新木妻長之助 | 議員 | 新木妻長之助 |



多年の夢實現

筒木原電話開通

上費八十萬圓はなれた避地で、今までには大村筒木原の大はるばる久の浜まで出て来電話架設工事をして電話をかけていたもので、本原部落は久は部落共有物として取扱はに八キロほどれる。

カツコ内は二九年度予算、
単位千圓) ▲委員会費四八六(四一八二) ▲小学校
費一二九七九(一一三三二) ▲維持修理費一三〇二八
(一一三六〇) ▲中学校費九

故人一枚は必ず保存すべき肖像畫

四新猪富北新佐
妻狩岡郷妻木
條妻茂弘藤三長之
芳一右工藤三郎助
雄郎門一郎助